

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100124
法人名	有限会社 トモメディカルサービス
事業所名	むつみの森 グループホーム すみれ
所在地	長崎県長崎市長浦町2584番地 (電話) 095-886-3390
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 8月 23日

【情報提供票より】 (平成20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	8人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	16,600 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝長医院・長崎市立琴海病院・道ノ尾病院・小山歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年、地域医療に携わってきた医療機関が設立したホームであり、3階建ての2、3階部分に開設しており、1階は同法人経営のデイサービスたんぼぼになっている。眺望良好な海沿いの住宅街の一角に位置し、ホーム内から広々とした海が間近に見渡せ、利用者や訪問者の心を和ませている。また、敷地内に地域の方が昔から祀られている水神様の祠があり、そこを管理され、年4回のお参り時以外、普段から近隣の方が度々訪れ、地域との繋がりの場となっている。管理者と職員の努力により、利用者を優先し、利用者的人格が尊重されている事が伺われ、それがホーム全体の和やかな雰囲気となって表れていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題であった、理念の共有や運営推進会議を活かした取り組み、家族への報告、本人と共に過ごし支えあう関係作り等、いずれも職員で話し合い改善が見られた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	管理者は、自己評価の意義や目的、活用について全職員に伝え、職員も理解しているが、今回の自己評価は管理者主体で行われていた。今後、具体的に評価内容の一つひとつ点検しながら職員全体で取り組み、サービスに繋げていくことを期待する。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) メンバーは行政、民生委員、自治会の方、家族会の方、利用者代表、ホーム職員で構成され、昨年度は年2回、今年度は年間5回の予定を立て実施している。会議では、地域の方々から、いろいろな情報の提供を受け三味線の演奏会や、事業所の夏祭りの改善点や次回に向けてのアイデア等、会議の意見で地域への事業所だよりも配布を始める取り組みもなされている。また、グループホームの知識を提供できないかとの意見から、地域へ向けての学習会開催を考えている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員全体で家族の意見、苦情が出しやすい雰囲気心がけており、その対応も苦情対策委員会を中心に素早く処理されている。また、行事を通して家族会との交流も強い。今後も誰もが気兼ねなく、忌憚なく意見や苦情の申し出ができる環境作りにも尚一層の努力を払っていただきたい。その中で家族の不安の対応という点で、施設間の職員の異動については、利用者への影響を考慮し最小限にされることが望まれる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	管理者自ら地元出身であり、行事や災害時の訓練等、地域の方の協力体制が非常に良い。施設自体も、積極的に大きな行事を催し、利用者、その家族、職員、地域の方、皆が楽しめるような努力を行っている。その姿勢が、日常生活の地元の方との交流にも、良好な関係を齎している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人を尊重し、地域の中での生活の継続支援を目指した、地域密着型サービスとして考えられた理念の内容になっており、5つの柱を基にした独自の理念で、いずれも利用者優先ということを重視した内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念の復唱を行い共有に努めている。新人職員もいる中、勤務外で話し合ったり、業務内でもケア通して考えるよう実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域の行事（掃除、夏祭りなど）に参加している。また事業所の敷地内に地域の水神様を祀っており、職員が管理している。地域の方は手を合わせに立ち寄られたりされている。利用者の三分の一程が琴海の方で、地元の方も顔見知りの訪問も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や活用については職員に話しているが、今回の自己評価の記入は管理者のみで行われた。前回の外部評価の結果は職員で話し合い取り組んでいるが、すべてには至っていない。	○	職員全体で自己評価に取り組み、評価項目を理解することで、より質の高いサービスの向上に活かして頂きたい。また、外部評価の結果については一つひとつについて改善に向けての取り組みを行い、改善シートを利用して現在の取り組み状況を職員全体で把握することを期待する。

むつみの森グループホーム すみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は2回、今年度は年間5回の予定を立て実施している。会議ではいろいろな情報の提供を受け三味線の演奏会に繋がった。事業所の夏祭りの改善点や次回に向けてのアイデア等、会議の意見で地域への事業所だよりも配布を始める取り組みもされている。グループホームの知識を提供できないかとの意見から、地域へ向けての学習会開催を考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と行き来する機会がなく連携は難しい状況である。	○	市町村からの情報を共有し、行政の介護相談の活用等、行政事業の活用等を通して連携をはかり、行き来する機会をつくることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時等に利用者の状況を報告するようにしている。個別の身体状況の報告書は中止しているが、家族が遠方の方や、連絡事項がある場合は手書きの手紙を月1回の入居料通知と一緒に送っている。金銭は預からず事業所の立替で後日請求している。職員の異動は来所された家族に話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談等は、家族から直接管理者へ来所時に話してもらっている。管理者は職員と共に苦情に迅速に対応している。重要事項説明書にも内部・外部の担当連絡先も明記されている。また行事の際、家族会も開催され、意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等により新人職員が増え、事業所間の定期的な異動は行われていない。運営者は事業所の全利用者と全職員がなじみ関係になり、全体を見れるように異動したいという意向である。	○	職員の交代や異動は、少なからず利用者、家族、職員にダメージがあると思われる。離職や異動を最小限にし、馴染みながらの支援への配慮に努めて頂きたい。

むつみの森グループホーム すみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を行っている。また、業務を通して新人職員への指導等がされている。外部研修には、業務的な都合や、距離的な都合により管理者・職員共に参加できていない状況である。	○	管理者・職員共に外部研等へ参加の機会を作る為、年間計画などを立て、新人職員の成長と中堅職員の段階的育成が行われることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は連絡協議会等、同業者との交流の場にはほとんど参加できていない現状であり、相互訪問についても「夏祭りの案内」等、送付してはいるが現在のところ交流は実現していない。	○	同業者との交流の場に参加することは、日々のサービスの質を高める情報源となるため、できるだけ参加の機会を多く持ち、それを有効に活かされることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居していただくため、本人や家族にホーム内の見学を勧め、事前の来所が困難な方には、管理者やケアマネが出向き、本人が納得した上のサービス利用に繋げている。入居後は、本人が落ち着くまで度々、家族に訪問依頼をし、職員間でも声かけを多くして徐々に馴染んでもらえるよう働きかけが成されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、これまで利用者が日常されていたことをできるだけしていただくことを重視し、共に畑仕事や食事作り、レクレーション等、お互いが楽しみながら行っている。そんな中で、利用者より箸の使い方や、言葉遣い、昔の知恵等を学び、支え合う関係がでている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を多くもち、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な方には、表情から察したり、生活歴や家族から聴取した情報を申し送りノートに記録し、それを基に職員会議で職員全体で考え、把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たってはセンター方式を導入しており、本人や家族の暮らし方の希望について把握し、立案、ケアマネによる仮のケアプラン、職員でのカンファレンスの流れで介護計画を作成している。ただし、家族や必要な関係者との具体的な課題やケアについての積極的な意見交換がまだ不足している。	○	管理者は、職員でのカンファレンス時に本人、家族、その関係者を交えケアのためのカンファレンスができるようにしていきたいという希望をもっている。日時の関係等、実現が難しい現状ではあるが、利用者本位の介護計画作成に向けた更なる取り組みを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは基本的に3ヶ月、利用者によっては6ヶ月に一度、職員全体でカンファレンスを行っている。また利用者の心身の状態の変化や状況の変化に応じて、主治医等を交えて意見を交換し、家族の意見、利用者本人の気持ちに応じた見直しを行うようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じて他の医療機関への通院や送迎など必要な支援については柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。また、利用者入院時の面会、食事介助、早期退院支援等も行っている。		

むつみの森グループホーム すみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、協力医療機関をかかりつけ医としている方が多く、週1回の往診が行われ連携がとれている。歯科、眼科についても同様である。送迎については家族の送迎が基本であるが個別に家族と話し合い協力して通院等支援がおこなわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に終末ケアを行った経験上、協力医療機関からの看護師派遣の体制もできており、家族とは早い段階で話し合いや意思確認書を交わしている。また、職員に対応についての研修を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけは、食事やトイレ誘導時等、やさしく、丁寧であり、職員間でもミーティングを利用して意識向上を図っていた。記録等の個人情報については、保管場所が定められており、職員と誓約書を交わし、十分、配慮をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れは決めているが、その日の利用者個々の気分や健康状態で、散歩やドライブに連れ出したり、室内でゲームを楽しんだり柔軟な対応が成されている。また生活歴を優先し、これまでの暮らし方を継続できるように心掛けている。		

むつみの森グループホーム すみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は海に見渡せる明るいリビングで和やかに利用者、職員共に楽しんでいた。また利用者は食事をワゴンから取り出しお盆に並べたり、気が向いた場合には片づけ等を職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、刻み食、とろみ等食事形態の工夫がされている。日曜日には利用者の好きなメニューを作るなどし、利用者の楽しみごとの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴し、入浴の希望時には日中できるかぎり対応している。入浴を拒否される場合には、声かけや対応を工夫している。1階にはダイサービスの広い半身浴用の浴室もあり、利用希望時には使用されることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、畑仕事や毎日のスーパーへの買い物等、気晴らしになるよう支援している。利用者は役割を分けているわけではないが、日々の生活の中で花の世話や食事作り、洗濯たたみ等、それぞれ自分のできることを自然に分かれて自主的にされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周囲の環境がよく、静かで海や緑の自然に囲まれた住宅街に位置しており、安全に散歩ができるコースである。玄関出ると車の通りもあまりなく、ベンチもあり頻繁に散歩を楽しめることが多い。また希望に応じてスーパーへの買い物支援などもされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関以外鍵はなく、鍵はかけていない。各階の出入り口はフローからの見通しが悪く、見守りに注意はしているが、出入りを知らせるセンサーを使用している。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		

むつみの森グループホーム すみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルはあり、年2回利用者も参加して、夜間も想定して避難訓練をおこなっている。災害対策については特に職員は熱心に参加し、近所の方も協力的で、毎回参加してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況や量を観察し記録されている。水分も1日の摂取目標を決め、こまめに摂れるようにしている。水分を摂られない利用者にはゼリーにしたり、ジュースにしたり工夫している。医者より水分チェックの指示があった場合は記録されている。カロリーやメニューも保健所の栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は広く明るく窓も多い。窓から海や夕日が見え景色が良く、居心地の良い場所になっている。壁には手作りの作品をはってある。トイレや廊下も清潔で片づけがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れたものや、好みのものを置いてあり、飾りや写真などその人らしい部屋になっている。ベットも利用者の状況に合わせた配慮がされている。		

※  は、重点項目。